

かた雪小雪、油屋の勘太郎

かんだ、かんだ、かんだ

などの歌もついていたことがある。

5、おはじきとへいほう おはじき石といって小粒の石を拾ってきて床板の上にまき、石の間を小指で、石にふれないように線をひいては、指ではじいて、当れば自分の所有になり、多く石を取った方が勝ちとなる。これはやがてガラスのおはじき専用のものになってきた。

張り石とは、その大きなものをお互に打ちつけて割れない方が勝つのであるが、おはじき石がガラス玉になつてから、張り石も、ガラスの大きな玉に変つてきた。これを大地の上でやる場合もあり、陣とりなどという遊びもあった。

へいほうは、手中におさまるくらいの小袋をつくり、中へ小豆など入れてぬいごめ、これを幾つもつくつて、両手で交互にほろぎ上げ、回数を通り、数多くおとさない者が勝ちということになる。共に女の子の主な遊びできれいな端布などで、いくつもつくつては、投げ上げて遊んだ。へいほうつきともいっていた。

これに似て竹べらを何本もつくり、いっせいに裏返して、それがまちがうと、敗けるというたけらという遊びもあった。ひとへら、ふたへらと、調子をつけて、いっせいに数えては遊んでいた。

6、あやとりその他 あやとりは主に女の子の遊びであったが、輪にした糸を両手指を使って、いろいろな図形にしたものを、相手がまた両手でとりついで、図形を複雑に面白くくんでゆくもので、競争意識はあまりなくやっていたようである。

この他鬼ごっこ、かくれんぼ、なわとびなどは現在も行なわれているし、こま廻し、かるた、羽子板つき、たこ